

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 6年 9月14日  
(136号)

# 中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊喜

新たにご入塾された皆様、前期よりご継続された皆様、登録塾生から塾生に切り替えられた皆様、どなたもこれから始まる一年間のスケジュールに期待を寄せておられることがあります。特に今期からは「人間学塾」でなく、ぜひ常任講師をさせていただきたい」と自らお申し出くださいました白駒妃登美先生、そして執行草舟先生のお二人が、正式に常任講師となつてくださいました。身に余る光榮です。

執行先生とこの夏に面会させていただいたときは、「この先日本は国難を迎えるだろうが、そのときに救いとなるのが「人間学塾」に集まる人たちだよ」とまで言われ、当塾に集い学ぶ塾生に先生が期待と希望を託しておられるごとに胸が熱くなりました。

また本期は初めて一泊研修にて山口県の「朴の森」を訪れます。ここは人間学塾・中之島の前身である天分塾の第1期より常任講師を務めてくださいました鍵山秀三郎先生の教えの息づく施設であります。鍵山先生は病に倒れられ平成17年まで務められた当塾の講師を木南一志先生にバトンタッチされました。だが、その間に私たちが先生から学ばせていたいたものは計り知れません。

例年では一泊研修は二回実施していますが、今期は遠方であることを踏まえ一回にはなる



「小さな積み重ねは大きな力になる」

祝人間学塾・中之島  
第十三期開講!

人間学塾・中之島第十三期 おめでとうござります。ご縁があつてのこと、人間学塾・



「人間学塾・中之島として  
めざすもの」  
副代表 古田 修平

本日ご入塾された皆様は、鎌山先生のお言葉を胸に、ぜひ只今より自分は何を積み重ねてゆくのかを自問いただければと思います。世の中はいつぺんに変わることはない。森信三先生は「宇宙は全一として、絶大なる調和体なり」との言葉を遺されています。必ずやこの星は大調和に向かって生成発展してゆく法則であるならば、宇宙を構成する一分子として、私たちも心新たに恐れることなく意気揚々と喜びにあふれて歩んでまいりましょう。これから始まる一年間の皆様の小さな積み重ねを励みに、そして自分自身の小さな積み重ねを楽しみに皆さんと共に過ごしてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

ものの、ぜひ「朴の森」での生きた研修を皆様に体感していただきたいと思います。ご息の幸一郎様が間近で見てきた鍵山先生の生き様をお伝えくださることでしよう。

鍵山先生は、最後となつた人間学塾での講話の中で、日本人の資質の低下を嘆いておられたことを思い出します。あの日から十年近くの月日が流れ、さて今現状はどうでしようか。見回すところ残念ながら政治家も含む国民のモラルや精神性、道徳心の低下は否めずそれに加え環境の激変により、人々の心も生活も荒みがちなのではないでしようか。しかし、鍵山先生はこうおつしやつておられますどのような時代を迎えるようと、自分の周りの小さなことから変えていけば、いずれその積み重ねは大きな力になると。

人間学塾・中之島は、前身である「天分塾」から引継ぎ、二十七年目を迎えます。私自身でも二十数年になります。この塾です、何を学んできましたのか、と問われたら、「今は『謙虚な生き方を学んでいます』と答えるだらう」と思っています。

毎月、ご登壇される講師の先生方からの講義の中から学びはたくさんあります。また、一緒に学んでいる塾生の皆様からも多くの学びをいただきます。学びは多くあります。それを日常の中にどう生かすかが課題です。

塾是の一一行目は、「森信三先生を始めとする先哲に学ぶ」です。私は、この塾に入塾して初めて森信三先生に触れることができました。寺田一清先生との縁からです。

森信三先生のことばの中で、「人生二度なし」、「しつけの三原則」等、いろいろなことばがありますが、私の中では、修身教授録の第25講の最善観の講の「いやしくも、わが身の上に起る事象は、そのすべてが、この私にとつて絶対必然であるとともに、またこの私にとつては、最善なはずだ。」この言葉に出会ってから、それまで、何かにつけて、理由をつけたり、誰かのせいにしたりすることばかりでしたが、起つたことに對しての取り組みを考えるようになりました。すべきは、上手くいくわけではありませんが、すくべを喜んで受け入れることを少し学んだのかなと思います。たゞ、すべてを受け入れることで満足していくはいけません。どんな状況、どんな事態に遭遇しても、すべてを受け入れられる自分の器と覺悟を持つて、やがて実践をすることを生涯かけてやがていきます。

人間学塾・中之島は、実践の塾です。塾生・世話人・顧問のすべての人々が、この塾で学ぶことによつて、日々の実践に繋げていきます。なることを目指していきます。



## 「開かれたコンミューン」

副代表  
松本  
学

人間学塾・中之島へのご入塾、  
誠におめでとうございます。

第十三期はこの学び舎が次元を一ヶ上げて一生お一人おひとりにとつて間違いなく素晴らしい一年になることを確信しています。

副代表を務めさせていただき三年目となつた第十二期に、私はその萌芽を体感しておりました。塾での皆さんの笑顔の輝きが違う、講師の先生方が帰途につかれる時に発せられる塾や塾生の皆さんへの慈愛が有難すぎるぐらいに満ち溢れている。こんな塾は、この日本中を探しても簡単に見つけることは出来ないでしよう。講師も塾生も渾然一体となつて心願達成を目指す、まさに森信三先生の「開かれたコミュニケーション」に向かつて歩を進めていります。

第十二期の卒塾式で少しお話しさせていただきましたが、第十三期は森信三先生が生前に予言された日本が再び立ち上がる二〇二五年へと突入する大事な一年になります。『百年の四分の一、四半世紀毎に大きな転換期がくる。二〇二五年で立ち上がり、二〇五〇年を迎える頃には世界が日本の底力を認めることになる。』我々人間学の学徒は、「ああ 中之島」に籠められた寺田一清先生のメッセージを、大切にしていきたいと思います。師恩の光に照らされながら、生き方の原理原則を学べることへの感謝を忘れず、日本の再生を心に秘めて、共に学び続けてまいりましょう。

第十三期の世話人については、次  
とおりです。何卒、よろしくお願ひ  
いたします。

といつても、特別に大きなことを考へる必要はない。自分の持ち場で各々が、時を守り、場を清め、礼を正し、目の前のやるべきことを、一つひとつ心を込めて実行していくこと、そこから未来へ続く新たな道をつくることができる。このお言葉を手掛かりとして、共に手をとり、中之島から日本の、そして世界の未来を拓いてまいりましょう。

「小さな気づきと実践の教え」  
私が初めて『人間学塾・中之島』の前身である  
『天分塾』第七期に入塾致しました時に、当時発刊  
されていました「天分塾ニユース」に寺田一清先生  
が寄稿されたお言葉を、次にご紹介したいと思いま  
す。

○あいさつー心の扉をひらく  
○すまいるー笑顔があれば笑顔がかえる  
○こしほねー集中力の極秘伝  
○そそうじー場を清め心の浄化  
○ははがきーご縁を深め結ぶ架け橋  
の『あすこそは』運動を、提唱しております。  
この五力条の一つでも身に体得することができた  
と、私自身の目標としております。」

「このラツキーセブンの一年間ににおいて、小さな気づきを得、小さな実践にふみきり続けるチャンスとなりましたらこれこそ、人生の宝ものを獲得することになります。またこの一年間において、一人の師を見出し、また一人の道縁の友を得られたとしたら、これに優る喜びはございません。この地上において真に心通じあえる人三人をもち得たら最大の至福と思えるのですがいかがでしょうか。とともにかくにも「小事」「瑣事」（ささいな事柄）を軽んじないでやり続けるところに「心願成就」のきっかけとなります。多年わたくしは、日常実践の五力条とし

これは今から二十年前に寺田先生が、塾生の私達に願われた教えであります。『人間学塾・中之島』第十三期を迎える私達に向けて、今も変わらず説き続けて下さつていて、私には思えてならないのです。そして森信三先生が「日本は二〇二五年に立ち上がるであろう」と考えられていた来年に向かって、二宮尊徳翁の「積小為大」（小さな事を疎かにしてはならない）その言葉の意味を深く心に刻んで、道友の皆さんと共に歩んでいきたいと思つています。

# 祝 第12期 人間学塾・中之島 卒塾式



第12期人間学塾・中之島卒塾式が  
令和6年8月10日土曜日、開催!  
懇親会も開催され、大いに盛り  
上りました。



集合写真  
近藤宏枝世話人、幕の揮毫  
ありがとうございます！

清水顧問 挨拶



懇親会では、  
濱田久美さんのフルート、  
岡本ユウコさんのダンス  
上田賀代さんのピアノ演奏、  
そして、最後は全員で  
「仰げば尊し」の大合唱で  
盛り上かりました。





塾生募集中

途中入塾も受け付けます。

「中之島ニュース」と共に中川さんからのお便り、メッセージ嬉しい拝読しています。お礼と感謝申し上げます。私もずっと前から落語が好きで二ヶ月に一度ミニ落語会を楽しんでいます。先日13期の登録塾生の申込も済ませました。来期もよろしくお願ひいたします。

愛知県

坂部智一様

第12期卒塾式おめでとうございます。

高野登先生の「あなたという存在の何が周りの人を幸せにしているのですか?」の問いかけはとても心に残りました。グループ討議参加ならこの言葉を選択していたと思います。寺田先生の言われた、「老いも若きも和楽の世界、このような空間はございません。」

愛媛県

桂誠司様

高野登先生のお話、大変わかりやすく有難いお話をしました。「自分の可能性を自分で決めてしまっている。自分の可能性をなめてはならない。こんなもつたらないことはありません。」これは大変勇気づけられる有難い言葉です。また、「ワクワクしないのは仕事ではない」の言葉、「仕事を「人生」に置き換えると生きしていくための指針になります。

## 第13期宿泊研修について

例年は秋と春の年2回宿泊研修を実施しています。今期の宿泊研修は、年1回とし、令和7年4月に山口県「朴の森」を訪れます。当塾にご縁の深い鍵山秀三郎先生ゆかりの地です。是非、お楽しみにしてください。



## 次月案内

令和6年10月19日（土）

午後1時～  
第3土曜日

◇日時

大阪大学中之島センタ

◇場所

10階ホール 3 4

◇講師  
◆◆ テーマ明恵上人と北条泰時  
「武士の道に慈悲を説いた人

石川真理子先生



石川真理子先生は、武家の家系に生まれ、明治生まれの祖母から武家の薰陶を受けられました。

## お願ひ

- ①中之島ニュースは塾生・登録塾生のためのものです。  
事務局・編集部に無断で転載や特にコピーなどを配布することは、ご遠慮ください。  
よろしくお願ひします。
- ②編集部アドレスは下記のとおりです。  
事務局とは異なります。  
感想文・文集・投稿等はこちらに↓  
お願ひします。  
[2012nakanoshima@gmail.com](mailto:2012nakanoshima@gmail.com)

編集後記

皆様！第十三期ご入塾、誠におめでとうございます。継続して入塾された方、また今期から入塾された方、ようこそ人間学塾・中之島へ。非日常空間へようこそ。今後、一年間、何卒、よろしくお願ひいたします。素晴らしい講師の方、そして塾生の皆様とのご縁に感謝です。

第十二期卒塾式もすばらしいものでした。卒塾記念品も大好評！お一人ずつ名前の入った万年筆。私も愛用しています。そして、コメ不足の中、ありがたい記念品のお米でした。

さて、このニュースを塾生の皆様方と一緒に作ってまいりたい思いますので、広く投稿を募集いたします。  
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集長 西村俊幸